



No.17 2019.10.

明石市コミュニティ・スクールだより
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

コミコミスクス

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

コミュニティ・スクールを通して未来の学校を！
人生100年時代に対応する学校づくり
コミュニティ・スクール自主研修会

コミスクNews

松が丘小コミュニティ・スクール 第2回学校運営協議会開催

9月24日の松が丘小コミュニティ・スクール学校運営協議会では「松が丘のグランドデザインづくり」と「松が丘サミット&楽学交祭」の2点について協議が行われました。学力調査の報告もあり、グラウンドデザインの中で宿題が話題になり、お孫さんを見ている中で感じたことごとや、保護者の方からもドリル・本読みといった、こなす宿題に対して率直な意見が出されました。本当に子どもを育てる宿題のあり方について、今後どのように話が深待っていくか楽しみです。

12月に開催される児童・保護者・地域の三者で松が丘の未来について話し合う松が丘サミットや3学期に計画中の楽学交祭について意見が交わされました。楽学交祭は、現在の児童長の児童会選挙の時の公約で、それを実現させる形で、児童、保護者、地域の皆さんの交流を狙った祭りを子どもたちが考えているとのことでした。子どもたちの企画・実践、子どもたちを信じて、任せて、支える、どんな祭りになるか楽しみです。

朝霧小コミュニティ・スクール

3年環境体験&環境講座

9月24日に朝霧小コミュニティ・スクールで3年生環境体験&環境講座が開催されました。子どもたちだけでなく大人も朝霧川の生き物・植物を観察の中で身の回りの環境について考えようというものです。網を入れてみるとメダカ、エビ、そしてドジョウにカニ・・・カワナも。朝霧川にこんなにたくさんの生き物があるなんてびっくりです。こんな宝物のようなフィールドが正門から歩いて5秒、朝霧川を切り口にな学習が、そしてどんな繋がりが生まれてくるか楽しみです。

(文責：北本)



研修を終えて→

Q.コミュニティ・スクールについてのご感想をおきかせください。

<学校関係の方>

- ・CSのイメージはつかめた。しかし、課題もわからないところもあるのでさらに知りたい。
- ・まだまだ十分に理解できていないが、自分が当事者であるという意識をもつことが大切だとわかった。
- ・未来の社会の担い手を育てるために地域と共に学校がどう向き合うか、少しずつ歩んでいきたい。
- ・最も大切なことは目の前の子ども一人一人の幸せだと常に思う。
- ・学校の在り方について考えることの重要性を実感した。細かな手段、方法にとらわれず柔軟に考えていく必要があると思う。
- ・授業時数の確保が言われる中、どのように時間を生み出せるかを考えないといけない。
- ・地域の方、異年齢の方と一緒に学ぶということは新しいことを知るきっかけになると感じた。
- ・これまでの私たちの常識（社会に閉ざされたもの：学校あるある？）を疑うきっかけは多くの先生方には、あったと思います。ただ、「CS導入で、本当に仕事が楽になるのか？」と思う先生方も多いように感じます。でも、こればかりは「やってみないとわからない」つまり、「わたしたちから地域へと開いていくことをしないと、地域は動かない」ということかなと思います。地域には、「学校のため、こどものため、地域のために」頑張りたい方が、たくさんおられます。このことは、前任校、現任校で感じたことです。

- ・新しい学習指導要領が求めている力がどのような力なのか、その力の必要性に気づかされた。
- ・松が丘小学校の取組はよく理解できたが、そこまでのプロセスを知りたい。

<地域の方>

- ・コミュニティ・スクールは、子どもの成長を支える役目ももちろんだが、まちづくりそのものであると思う。
- ・地域としてもやるべきことがあることに気づいた。
- ・地域住民及び子育て世代の人がかかわりを多くする必要を感じる。先生のやるが多すぎる。

学校と地域・保護者が連携しながら、地域を担う子どもを育てていくことがコミュニティ・スクールの目指すところです。そのことについて理解が深まったという声が多数ありました。学校と地域・保護者が連携を進めることは、互いに明確な役割分担をして、学校や地域それぞれの教育の特質を生かした取組が重要になると考えます。そこで「互いが何を生かし、どのような取組ができるのか」という具体的な問いが参加者の方に芽生えてきたのではないかと捉えました。

Q.次なる100年に向けて学校は変わっていくと思いますか。またどのように変わっていくと思われますか。

<学校関係の方>

- ・小中一貫の取組も同じだが、思い切った舵取りをしないと変わらない。
- ・変化しないとダメだと思います。
- ・学校を変えるのは、今まで外的圧力という手段しかなかったように思う。しかし、経済界も今後日本が生き残っていくためにどのような学びが必要であるか真剣に考えている。
- ・変わると思う。変わらざるをえない。しかし、国全体でどれだけ本気になるかだと思う。予算や啓発面等、積極的な動きが必要になる。過去数十年のように変化が見られない事態は避けたい。
- ・変わる必要があると思うが一教職員の立場で変えていくことは難しいと思います。やはり校長先生のリーダーシップが大切だと思う。
- ・変わるところや変わらないところがあるのだと思う。ICTの発達・活用により、授業の在り方、話し合いの行われ方、集会の形など多くのことが変わると考える。それでも人と人との関りは変わらないと思う。よりよいコミュニケーションの在り方を考えていきたい。
- ・学校は変わっていくと思います。地域の方をまきこんで、地域の方が学習等に入ってくることが、ごくごく当たり前になるのではないのでしょうか。
- ・学び方、学びの形が変わっていくことを感じた。現状のシステムは限界に達していると思います。同じ年齢の人が同じ内容を同じスピードで、からの脱却。同質性→多様性、受け身→主体性を重視したシステム。学校は何のためにあるのかという原点を再確認しあり方を見直していく必要があると思います。
- ・学校はこれまでの歴史をみても変わりにくい。いろいろと社会の要請があってもその時々、多少変化しても本質的には変わっていないことが多い。しかし、社会の変化は急激に変わることはまったなしの状況である。特に高齢化に進む地域、外国人の数が多地域がいち早く変化し、また我々教員、地域の方の考え方、意識も変わってくると思う。

<地域の方>

- ・参加者が少なく残念。教育委員会はコミュニティ・スクールの広報及び研修を教師のみならず、市職員に対しても、まち協に対しても実施すべきだと思います。
- ・国における中教審が、地域におけるCSの位置づけと同じだと思う。真剣に考える場（熟議）が必要だと思っている。
- ・よい学びがあった。次回も参加したい。

このように学校関係者、地域の方、双方にとって学びある研修となったのではないのでしょうか。今回の自主研修のように、学校関係者と地域の方が一堂に会して研修を行うことは、コミュニティ・スクールを共に創り上げていくうえで、大変意義のあることだと考えます。第1回目は2名の先生方の講話を聴くことが研修の趣旨でした。10月8・15日の研修は引き続き小西教授をお招きして、参加者の皆様でワークショップを計画していますので、多くの方の参加をお待ちしております。同じ学校の教職員、地域の方などお誘い合わせてご参加ください。（文責：本所）